

校種・教科等	高等学校 水産(機関)	受審番号		氏 名	
--------	----------------	------	--	-----	--

『水産科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和6年9月9日 第2校時(50分)			
(2) 場 所 1年 A 組教室			
(3) 学年・学級 第1学年 A 組(15名)		使用教科書 水産海洋基礎(海文堂)	
(4) 単 元 名 第2章「水産業と海洋関連産業のあらまし」 第1節「船と暮らし」			
教科書 P37～52			
(5) 指導する生徒の状況			
【既習事項】			
・水産海洋基礎(座学と基礎実習)の学習の中で、海のあらまし(第1章)、船の歴史、船の種類と役割、乗組員の編成と必要な資格について学習している。			
【単元のねらい】			
・四面を海に囲まれた地理的条件から、日本は古くから海を、漁業、海上交通、輸送の場として利用してきた。本単元では、船の歴史や種類、役割、乗組員の編成と必要な資格、安全な運航について理解し考えを深める。			
【生徒の状況】			
・水産海洋に関することに興味・関心を示す生徒は、クラスの半分程度である。			
・授業中、自主的にノートをとる生徒が約 7 割で、講義式の授業で集中できるのは 30 分程度である。			
・発問に対して、積極的に発言する生徒は多いが、学力差があり、反復を繰り返さないと定着しない。			
(6) 指導計画(全15時間)			
次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (4時間 本時4/4)	○船と暮らし 船の種類と役割、船の運航に関する基礎的な知識を理解する。 1-1 船の歴史 1-2 船の種類と役割 1-3 乗組員の編成と必要な資格	一斉 個別	知識・技能 主体的に学習に取り組む態度
	1-4 船の安全な運航 船を安全に運航させるための操縦者の心得、海の交通ルールに関する基礎的な知識を理解する。 (1時間:本時)教科書 P48～52	一斉 個別	知識・技能 主体的に学習に取り組む態度
第二次 (4時間)	○とる漁業 水産業の歴史や漁業方法に関する基礎的な知識を理解する。 2-1 漁業の変遷 2-2 漁業生産の動向 2-3 とる漁業	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
	○つくり育てる漁業と資源管理 水産資源を維持していくための管理型漁業を理解する。 2-4 つくり育てる漁業(増殖と養殖、種苗生産) 2-5 つくり育てる漁業の具体的事例 2-6 資源管理型漁業 2-7 資源管理の具体的方法	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (4時間)	○水産物の流通と加工 漁業生産の基礎である採魚と集魚、各種漁獲法を理解する。 3-1 水産物需給の現状 3-2 食品流通のしくみ 3-3 食品流通の技術 3-4 水産物の加工	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
第四次 (3時間)	○わが国の水産業と海洋関連産業 海洋関連産業とは何か、またどのような役割があるかを理解する。 4-1 わが国の水産業 4-2 海洋資源の開発と利用 4-3 海洋空間の利用	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。